

2021年3月大学卒業予定者の 就職活動の状況

学生の就職観・特徴

- 本当に伝えたいことの言語化が苦手。
- 自身をよく見せようという意識が強く、型やマニュアルを気にし過ぎる。
- 両親のアドバイス・意見に耳を傾ける。
- 自宅エリア内の就職先を希望する傾向あり。
- 福利厚生への充実度への関心が高い。
- 終身雇用へのこだわりが薄れている。
- 社会貢献に対する意識が高い。
- インターンシップの参加が、就職先決定に大きな影響力をもつ。
- リモート授業が続く中、学内の就職支援サイトを活用する動きが高まった。
- コロナ禍で、大都市への就職を控える動きを見せ、Gターンも視野に。
- 奨学金を活用する学生が増えている中、奨学金の返済手当支給の有無を就職先選びの基準のひとつに。

留学生の状況

- コロナ禍の影響で、バイトで生活費を稼げなくなり、就職活動が疎かになっている。
- ビジネス会話への苦手意識が強く、就職活動に消極的になりがち。

オンラインによる採用活動

- 短時間、移動なし、テンポが良いなどの高評価の一方、細かいニュアンスが伝えづらく歯がゆさも感じている。
- スマホで映像を見る学生も多く、企業側に、見やすい文字サイズや聞きやすい音声を望んでいる。

本会では県内の大学を訪問し、2021年春に就職を希望する学生の就職活動の状況を伺った。本年も採用選考の本格的な時期を迎える中、コロナ感染症の拡大防止に伴い、企業が対面の採用活動を控えるとともに、大学側も学生の来校を制限した。そのため、例年以上に、早めに内定を得られない学生と、なかなか得られない学生の二極化が強まり、就職活動の長期化が予想される。7月現在の内定率が前年を下回る大学も見受けられた。

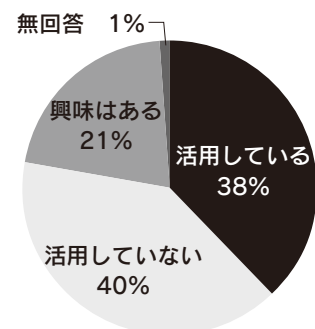
一方、本年3月に実施予定で中止となった本会の合同企業説明会に参加予定の県内中小企業159社に採用意欲を聞いたところ、90社（回答率56・6%）より回答を得た。そのうち約9割が「採用予定あり」と回答しており、高い比率を示した。

また、本年の採用活動は、Zoomなどを活用したオンラインによる選考の伸展が特徴的である。同調査によると、「オンラインを活用している」と回答した企業は、4割弱という結果となった。（下記図表）

大学によっては、こうした状況変化の対応策として、学生に対してネット環境整備の助成金を支給したケースも見られる。

このように、本年の就活生は、イレギュラーな就職活動を強いられる中、大学側から見た学生の就職観や特徴の一部を左記で併せて紹介する。

オンラインによる採用活動の有無



(有効回答数90社)